

石神中学校だより 4号

発行日：令和2年 6月8日

2020重点目標〈自ら学び、夢の実現のためにやり抜く生徒〉 文責：校長 佐藤恭司

第1回避難訓練を行いました



机の下に避難する生徒

6月5日、今年度初めての避難訓練を実施しました。今回は地震発生後、3階理科室から火災発生、東よりの風にあおられて、他教室に延焼の恐れがあるという想定の下、全校生徒が体育館に避難しました。本校は過去に体育館を火事で焼失した経緯があり、特に人命を守るための避難を第一に行っています。

子どもたちは、これまでの避難訓練から学んだ知識を活かし、煙から身を守るため鼻や口にハンカチ等あてがいながら、真剣に避難することが出来ました。火災に限らず、いつ何時、地震や水害、土砂災害等が起こるかわかりません。今後も様々な状況を想定した避難訓練を行っていきたいと思います。

避難訓練から気づくこと

ねがい①

今回の訓練の中で感じたことですが、自分がいる場所、学校や家庭、買い物先、部活動の大会会場などで、もし、火災が起きたとき、避難誘導はもちろんですが、身近にある消火器を使って初期消火が出来るだろうかと不安になりました。消防署員の説明だと消火器から出る粉末消火剤は約30秒しか出ないそうです。普段使用する機会のない消火器が扱えるのだろうか。初期消火の大切さを感じつつ、消火器の取扱について想定訓練をこまめに行わなければならないと思いました。



地域に支えられていることに感謝です

本校校庭北道路に面したブロック塀下側数十メートルに渡り花が植えられています。本地区が「原町市」だった頃より地域の「石神青少年を育てる会」の皆さん方が長年にわたり植栽を行っていただいています。また、南相馬市防犯協会石神支部の皆さん方にも、防犯パトロールや交通安全運動を行っていただき、子どもたちの安心安全につながっています。本校は地域に支えられていることに深く感謝しながら、これからも連携して取り組んでいきたいと思っています。



部活動が始まりました

6月1日より部活動が再開しました。1週間は準備期間として1時間程度の活動を行い、6月8日（月）から通常の部活動再開となりました。本校では、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた部活動の運営について、次のとおり取り組んでいきます。

- (1) 部活動は、3密（①密閉、②密集、③密接）を避けるよう、実施内容は方法、活動時間の短縮等の工夫をする。
- (2) 発熱等の風邪症状が見られる時は、部活動への参加を見合わせ、自宅で休養する。
- (3) 部活動への参加については、保護者及び本人の意向を十分に尊重する。
- (4) 6月中の土曜、日曜の活動は行わず、7月以降については、感染症拡大等の状況を見て検討する。
- (5) 部活動は、毎週月・火・木・金の4日間に実施し、原則として毎週水曜日を休養日とする。
- (6) 6月8日以降の活動は2時間程度。南相馬市では当分の間、短縮授業が続くため、部活動終了時間は17時30分終了（17時45分完全下校）とする。
- (7) 体育館で活動する部活動は3密を避けるため、体

育館使用割当に基づいて活動する。部によっては男女で分ける等の工夫をして取り組み、また、体育館で活動できない場合は、休養または校庭での活動となる。

- ◇ スポーツ庁の指示を受け、熱中症も懸念されることから、体育の授業及び部活動中はマスク着用をしながらでも良いこととなりました。衛生管理と距離間を保ちながら指導を行っていきます。



ティーム・ティーチングの取組

本校では、数学科を中心にティーム・ティーチングを取り入れ、単元や授業内容により、複数の数学科担当教師が担当します。多いときには1クラス3名の先生が入り、個々の実態に応じた関わりや個別指導を行っています。

ティーム・ティーチングとは、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式のことです。チームの教員一人ひとりの特性を最大限に生かした体制であり、単に同じ場所に複数の教員が配置されているということではありません。それぞれの教員が分担する役割をしっかりと果たすことで成り立つ指導形態です。＜メリット＞

- ① 多くの視点から児童生徒の実態が把握できる。
- ② 一人ひとりの教員の専門性や特性を生かし創造的な授業を実施できる。
- ③ 多様な学習グループが編成でき、一人ひとりの生徒の実態に応じた指導が可能となる。



数学科2名（T1、T2）での指導・支援の様子

子どもたちに伝えたい名言とことわざ③

「朱に交われば赤くなる」（しゅにまじわれば あかくなる）

人は付き合う人の良し悪しによって善悪どちらにも感化されるという意味です。朱の中に入ると朱色に染まることから出来た言葉とも言われます。周りの人や環境次第で感化されてしまうので、「頑張る友達に刺激を受けた。自分も頑張ろうと思う。」というふうに、良い影響を受けられるようにしていきましょうという意味を持つ言葉です。

